

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



2016～2017年度 国際ロータリー ジョンF. ジャーム 会長テーマ

Rotary serving humanity 人類に奉仕するロータリー

創立 1954年3月8日  
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30～13:30  
例会場 刈谷市新栄町3の26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL (0566)22-2111  
FAX (0566)25-2111  
メール kariyarc@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 加藤 哲也  
幹事 久米 博明  
会報委員長 鬼頭 一浩

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第2964回例会プログラム

[当年度=32回目；当月=2週目]

2017年（平成29年）4月10日(月)

## 1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム  
12:30 2. 点鐘……〈副会長〉  
3. 開会宣言  
4. ロータリーソング斉唱……我等の生業  
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介  
6. 食事
- 12:45 7. 副会長挨拶並びに副会長報告  
8. お祝い  
(誕生日祝・結婚記念日祝・入会記念日祝)  
9. 幹事報告  
10. 出席報告  
11. 委員会報告  
12. ニコニコボックス報告  
13. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(4/17) ……卓話  
講師 アイシンバスケット「シーホース三河」様  
(紹介者 新海 伸二 会員)  
(4/24) ……  
クラブフォーラム (雑誌委員会)
- 13:00 14. 本日のプログラム  
卓話 「長唄の魅力」  
講師 長唄 唄方 杵屋 六春 様  
(紹介者 加藤大志朗 会員)
15. 謝辞  
16. 点鐘……〈副会長〉  
17. 閉会宣言

13:30 18. 散会

## 出席

会員総数 93名 出席免除 24名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 84名  
欠席 9名 出席率 89.29%  
前々回(3/27)の修正出席率 100%

## 委員会報告

## ●環境保全小委員会

- 1) 5月8日に刈谷ハイウェイオアシスにて、例会を開催し、その後小堤西池のカキツバタ群落の見学をして頂き、長年RCが支援してきた現状をご確認頂きます。よろしくお願ひ致します。

## 副会長あいさつ

## 最近、気になった話

橋 典子



私の生徒が、岐阜県の高山でピアノの先生をしています。電話がかかってきて、「ねえ、先生、聞いて下さい。」というのです。ピアノを教えていた生徒が、突然耳が聞こえなくなりました。なんか最近そんなに大きな音で弾かなくてもよいのにバンバンうるさく弾くのでどうしたのかと思ったら耳が聞こえなくなったのです。まず突発性難聴をうたがわれましたが、そうではありませんでした。次に、何か原因があるだろうということでピアノのレッスンをやり玉にあげました。まあ熱心に又厳しくやっており、コンクールなども受けていましたのでじゃあピアノのレッスンをやめてみようかということになりました。ところが本人がぜったいピアノのレッスンはやめないと云うのです。御両親がそれで

は、名古屋の大学病院でみてもらおうと考えました。いろいろ調べてもらった結果、何といじめが原因でした。子供は絶対親には言わないのです。いじめられていることを。本当にびっくりしました。今回のように何かおかしいなとわかったので対処できましたが、水面下のいじめもありこの場合は中々難しいです。新聞やテレビでいじめの報道もあり、心を痛めますが結局最後は親がしっかり子供のことを見ていなくてはいけないということではないでしょうか。このお話した小学生がどうなったかという、ラッキーなことはいじめていた子が転校することになり、順調に回復したそうです。

## お 祝 い

4月の会員の誕生日…嶋津孝久、杉浦文雄、加藤正則、深谷嘉英、毛受豊、天野櫻子、後藤直樹、關淳之会員。  
配偶者の誕生日…池田初枝（憲司）、大音三恵子（祖瑛）、神谷真由美（龍司）、塚本真知子（幸夫）、橋本貴美（恭典）、河内悦子（利夫）、加藤真由美（繁則）、菊地佳子（康英）、村上眞裕美（由洋）、佐野三恵（彰彦）様。  
結婚記念日…原田光二、岡本巧、室殿豊、三吉茂俊、嶋津孝久、出口達也、神谷強会員。  
4月度入会記念日…野村重彦、前田孝司、橋本恭典、平野和一、毛受豊、太田宗一郎、今村順、伊藤節夫、天野櫻子、中林久美、關淳之、小澤陽一会員。

## 卓 話

### 「江戸の華 ～長唄の魅力～」

長唄 唄方 杵屋 六春 様



長唄で用いられる三味線は室町時代に中国から琉球、そして堺に伝わったと言われております。沖縄の三線を琵琶法師や檢校けんぎょうによって改良され、大阪に渡来いたしました。大阪には地唄と呼ばれる音楽が盛んになり、江戸に伝わる時には少し楽器がコンパクトになり、長唄で用いられるようになりました。長唄は歌舞伎の伴奏音楽として生まれ、町人の流行歌として発展してきました。「長唄」という文字が最初に登場した文献は元禄年間「松平大和守日記（まつだいらやまとのかみにっき）」。公家は雅楽、武家は能楽、商人町人は長唄やお琴など、位によって音楽芸能の種類が違うのが江戸時代の

特徴でもあったわけです。

文化・文政の時代には9代目10代目杵屋六左衛門、長唄の代表曲である「勧進帳」の作曲者4代目杵屋六三郎などと名作曲家が生み出す曲が数々誕生し、長唄は黄金期を迎えます。

江戸時代後期にはお芝居の伴奏ではなく純粹に長唄を楽しみたいといわゆる「お座敷長唄」というものが出来、演奏家が主役の曲も多く作られました。300年今に伝えられ愛される長唄の魅力歴史や作風を交えお話しします。演奏形態人数などのお話や三味線の原材料のお話、義太夫や常磐津や清元と長唄の一目でわかる違いのお話など演奏を交えての進行となります。

